

利根川水系河川整備計画(原案)策定のため利根川、江戸川有識者会議を傍聴し余りの公正を歎く。

会議の進め方に「ただただあまぬまい。委員の質問に真摯な答へと出る」等々のこの整備計画に対する意見。

妥当性のあるものとは認識してますから、以下利根川水系河川整備計画(原案)につき意見を述べます。

- ① 私は2006年から8年にかけ17回の有識者会議を傍聴いたしました。  
 2006年12月18日の第2回利根川、江戸川有識者会議で関東地方整備局は「意見をうなづき原案を修正し、その修正原案について再び意見を聞く」といったことを何回か実施して河川整備計画案を取りまとめると明してあります。  
 公の立場で、責任者が「明確にこれは当然のことながら実行されなければなりません。」  
 1997年の河川法改正に当たり、関係住民の意見反映に2回、国土省河川局長は、  
 国会の質議で関係住民の意見を取り扱い、廃止されといふのでは全く意味がない  
 「河川整備計画には関係住民の皆さんの意見を反映はりくと見ていい」と  
 答弁してあります。当時の河川局長の答弁に対する今の河川管理者は、この河川整備  
 計画に私達関係住民の意見を反映させる義務があります。

1997年9月衆議院運輸委員会でも今述べた通り政府委員が答えてあります。

今後の利根川三河川整備計画の策定におけるこの島々見るとのようになっていくのが、

明らかにすべきであるかかる。

- ② 利根川本川と支川は相互に關係しているにも関わらず、今回は本川だけの計画であり、  
 2006年11月から2008年5月に行われた利根川水系河川整備計画の策定作業  
 では利根川本川と、利根川、江戸川、支川の鬼怒川、小貝川、霞ヶ浦、  
 清瀬川、甲川、綾瀬川の五つのブロックに分け、各々に有識者会議の  
 設置されています。しかしその後空室車不明のまま、中止となりました。  
 なぜ関東地方整備局は、本川関係だけを審議する利根川、江戸川  
 有識者会議の開催だけ終了しようとしているのですか。  
 支川も含めた整備計画策定になると、準備等長い期間を要するに至ります  
 本川だけにしてハシ場ダメ本体工事着工の条件をクリア  
 しようと画策しているのであります。非常に早急なやり方でありますから、  
 云々うかがうあります。

4年ぶりに開かれた今回の策定作業で示された整備計画案は

2008年案と大きく変わります。治水安全度は  $\frac{1}{50}$  から  $\frac{1}{10}$  变化  $\frac{1}{80}$   
治水目標量  $15000 \text{ m}^3/\text{秒} \rightarrow 17000 \text{ m}^3/\text{秒}$

その他河道対応流量は  $13000 \text{ m}^3/\text{秒}$  から  $10000 \text{ m}^3/\text{秒}$  の増  
ダム等による洪水調節量 約  $2000 \text{ m}^3/\text{秒}$  から、 $1000 \text{ m}^3/\text{秒}$  の  $3000 \text{ m}^3/\text{秒}$  へ。  
すべてハシ場ダムを位置づけしやすくするための数字の引き上げであります。  
有識者会議の呼び治水目標量の是非、この計算の洪水流出モデルを  
もめて過大な流量を算出するもので不自然なものであると指摘されており  
が、科学的な論拠のある答弁はありません。

大事な指道は卒終とりめり、あくまで「有識者会議は議論の場」では  
ない、意見をぶら下す場である」と繰り返し整備局は言つてありました。  
これまで国が住民の命を守るために河川整備計画策定の場の発言であります。  
何でも言つていい後は整備局側の思ふようにする、との思惑が流れ  
みていました。納税者としてこの会議のありようを是認することはできませんでした。

計画案の事業内容を見ると、ハシ場ダムの残事業費を含めて 8,350 億円を要すると  
算出します。ハシ場ダムだけではなく他のダム等など工事額は必ずあります。  
2009 年度の國工交通白書では、過去につづく社会資本の維持管理費、  
更新費等々次第に増加し 2037 年度には投資可能額に達してしまって  
記入されています。この予測では新規事業と 2300、維持管理費、更新費用等  
不足するのではないか? です。

湯川のように巨額な予算を投立てない事業はムダに使うのではなく  
住民の安全を守るために治水に対する厳正監視です。

この河川整備計画案は、次の世代に負の遺産と傳承はされてしまうものであり、  
優れた仁義であると評価することはできません。もとより現実と向合ひ  
計画案をやり直して下さい。環境破壊するのみなく美しい環境と豊かな  
自然を次世代に残すよう、日々の生活の中で現実と向合っていき  
住民と協議して下さい。

最後に一言申し添えます。身半の子供も連れて生きていた  
子供たちは流域住民として身半の子供も連れて生きていた  
有識者会議を陥れにしてしまった、しかし関東地震の余波にも非民主的。  
現実的な、不誠実な会議の直前に鬼わす抗議の声があげました。人間として  
あり前の行為なのです。その度に「道行の防げ」になりました。  
注意があり、陥れの市民を不審者と取扱い国民党子供には居ないといわれ  
かかって出てもらいましたと報告にありました。進行のままではしていいのは  
関東地震の不誠実な会議の仁義ありますのであり電子座長の局側の意向に  
満たさず採配がいい目に余りましたからです。主導者は市長ですよ。今後このおること  
ないよう